Weekly report

株式会社　ミンカブソリューションサービシーズ
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は高値圏でレンジ相場か

［１０月１６日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　　10 月 9 日～ 10 月 13 日

	始　値	高　値	安　値	終　値	前週比
ドル･円	149.07	149.83(12)	148.17(10)	149.72	+0.40
ユーロ･ドル	1.0563	1.0640(12)	1.0520(9)	1.0540	-0.0046

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内株･金利／米国株･金利

	終　値	前週末比		終　値	前週末比
日経平均株価	32,315.99	+1321.32	日本10年債利回り	0.760	-0.045
ダウ平均株価	33,631.14	+223.56	米10年債利回り	4.697	-0.104

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

１６日　英１０月ライトムーブ住宅価格
　　日本８月鉱工業生産指数
　　ユーロ圏８月貿易収支
　　カナダ８月卸売売上高、カナダ８月製造業出荷
　　米１０月ＮＹ連銀製造業景気指数
１７日　ＮＺ第３四半期消費者物価指数
　　英９月雇用統計
　　独１０月ＺＥＷ景況感指数
　　カナダ９月消費者物価指数
　　米９月小売売上高
　　米９月鉱工業生産･設備稼働率
　　米８月対米証券投資
１８日　中国第３四半期ＧＤＰ、中国９月鉱工業生産指数、中国９月小売売上高
　　英９月消費者物価指数、英９月生産者物価指数、英９月小売物価指数
　　ユーロ圏９月消費者物価指数確報値
　　米９月住宅着工･許可件数
　　米地区連銀経済報告（ベージュブック）
１９日　日銀支店長会議、１０月の地域経済報告（さくらリポート）公表
　　日本９月貿易収支
　　豪９月雇用統計
　　ユーロ圏８月経常収支
　　カナダ９月鉱工業製品価格
　　米新規失業保険申請件数、米１０月フィラデルフィア連銀景況指数
　　米９月中古住宅販売件数、米９月景気先行指数
　　パウエルＦＲＢ議長講演
２０日　ＮＺ９月貿易収支
　　日本９月消費者物価指数
　　中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート　１年　５年）
　　独９月生産者物価指数
　　英９月小売売上高
　　カナダ８月小売売上高

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】ドル円は１５０円接近では介入警戒感が強まるものの、１４７円台半ばから１４８円付近では底堅い動きが見込まれる。こうした中、ドル円は高値圏でのもみ合いが継続するとした。

【ドル円は高値圏でのもみ合い】
１１日に発表された米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事要旨では、今後の金融政策の決定に関しては慎重に判断するとの内容が示された。また、インフレが継続して減速するのを確認できるまでは「引き締め的な政策を維持する必要がある」との見解が示された。

なお、ＦＯＭＣメンバーの大半が「利上げはあと１回が適切」との判断を示した。一方で、数名のメンバーは「一段の利上げは正当化されない可能性が高い」との見解を示した。ただ、おおむね市場の想定の範囲内の内容だったこともあり、影響は限定的なものにとどまった。

米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）高官による発言はタカ派的なものだけでなく、ハト派的なものも目に付く。９日にダラス連銀のローガン総裁は、「景気抑制的な金融環境は当面は必要と考える」としながらも、米長期債の利回り上昇で「追加の金融引き締めの必要性が低下する可能性がある」との認識を示した。

アトランタ連銀のボスティック総裁は、１０日に「政策金利はインフレ率を低下させるのに十分に景気抑制的な水準にある」と、これ以上の利上げは必要ないとの認識を示した。１１日にも講演で同様の見解を示している。

一方で、ＦＲＢのボウマン理事は、１１日にインフレ率を目標水準まで低下させるには、政策金利を一段と引き上げ、従来の見通しよりも長期間高止まりさせる必要がある可能性があるとの見解を示した。ただ、ＦＲＢ高官の発言は、今後の利上げに関して見解の相違はあるものの、現在の高い水準の金利を維持するという点では一致しているようだ。

イスラム組織ハマスによるイスラエルの攻撃で地政学リスクが高まり、リスク回避の動きから米国債が買われて利回りが低下を見せた。ただ、１２日の９月の米消費者物価指数が市場予想を上回ったことで、米債利回りが上昇に転じるとともにドル買いの動きに傾いた。

１２日の米９月消費者物価指数は、総合指数は前月比＋０．４％、前年比＋３．７％となり、いずれも事前予想を上回った。ガソリン価格、住居費、食品などの上昇が指数の押し上げにつながった。一方で、コアは前月比＋０．３％、前年比＋４．１％となり、事前予想の通りとなった。

ドルインデックスは４日の１０７．２４近辺から１２日には１０５．５３近辺まで下落した。ただ、１２日の米消費者物価指数の上振れで１０６．５０近辺まで大きく上昇した。

日銀による大規模緩和策の継続のため、円は売られやすくなっており、ドル円の下値を支えている。ドルは売り一巡後に強い米消費者物価指数を受けて上昇しており、ドル円は底堅い動きを見せている。ドル円は１５０円超では日本の金融当局によるドル売り円買い介入も警戒されるため、１４９円台後半では伸び悩みを見せている。ドル円は１４８円割れでは底固く、１５０円接近では上値が重い展開が見込まれ、高値圏でレンジ相場となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、１４７．００～１５１．００円。

日米の経済指標やイベントとしては、１６日に日本８月鉱工業生産指数、米１０月ＮＹ連銀製造業景気指数、１７日に米９月小売売上高、米９月鉱工業生産・設備稼働率、米８月対米証券投資、１８日に米９月住宅着工・許可件数、１９日に日本９月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米１０月フィラデルフィア連銀景況指数、米９月中古住宅販売件数、米９月景気先行指数、２０日に日本９月消費者物価指数などがある。

【ユーロドルは戻り一服でもみ合いか】
ユーロドルは３日には１．０４４８近辺まで下落する動きを見せた後、下げ渋りの動きを見せてきた。下落局面で上値を抑えられていたボリンジャーバンド－１Σを上抜き、２１日線を回復する動きを見せた。ただ、１２日にドル買いの動きから再び２１日線を割り込んでいる。

ユーロ圏ではドイツをはじめとして景気は弱さを感じられる動きが見て取れる。ただ、一方で、これまでに大きく売られてきたことで、売り一巡感から下げ渋りの動きもみられる。強弱感が交錯する中、ユーロドルは戻り一服でもみ合いとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．０４５０～１．０８００ドル。

ポンドドルもユーロドルと同様に戻り歩調で推移してきたものの、１２日にはドル買いの動きから大きく下落した。英国の経済指標は強弱まちまちながら、１２日発表の８月の月次ＧＤＰは＋０．２%となり、事前予想の＋０．１%を上回り、前回の－０．５%からプラス転換した。ポンドドルはこれまでの下げの反動から上昇に転じたものの、その動きが続かなくなっており、目先はレンジ内でのもみ合いが見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、１．２０００～１．２４００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、１６日に英１０月ライトムーブ住宅価格、ユーロ圏８月貿易収支、１７日にＮＺ第３四半期消費者物価指数、英９月雇用統計、独１０月ＺＥＷ景況感指数、カナダ９月消費者物価指数、１８日に中国第３四半期ＧＤＰ、中国９月鉱工業生産指数、中国９月小売売上高、英９月消費者物価指数、英９月生産者物価指数、英９月小売物価指数、ユーロ圏９月消費者物価指数確報値、１９日に豪９月雇用統計、ユーロ圏８月経常収支、２０日にＮＺ９月貿易収支、中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート　１年　５年）、独９月生産者物価指数、英９月小売売上高、カナダ８月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

＜著作権について＞
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。